

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16680

研究課題名(和文)大正・昭和期の農民文学運動の研究 アイルランド・日本・朝鮮の相互交渉を手がかりに

研究課題名(英文) Research on the Peasant Literature Movement during the Taisho and Showa Periods ; Using Evidence of Mutual Connections between Ireland, Japan, and Korea

研究代表者

鈴木 暁世 (SUZUKI, Akiyo)

金沢大学・歴史言語文化学系・准教授

研究者番号：60432530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：大正・昭和期における日本の農民文学運動におけるアイルランド文学の受容と変容を実証的に明らかにすることで、関東大震災後から戦時下の総動員体制下の日本の地方劇運動の特徴と変容を検証した。さらに、日本近代文学におけるアイルランド文学の受容の特徴を、朝鮮文学・台湾文学におけるアイルランド文学の受容及びアイルランド劇の翻訳・翻案・上演の事例とを比較・分析することで、植民地における人々の生活や社会問題が、東アジア圏の近代文学のなかでどのように焦点化・問題化されたのかを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：By empirically clarifying the reception of and transformations to Irish literature in the peasant literature of Japan, I examine the characteristics of regional drama movements in Japan from the post-Great Kanto Earthquake period to the mobilisation period during wartime. Furthermore, by comparing the characteristics of the reception of Irish literature in modern Japanese literature with examples of the translation, adaptation, and performance of Irish literature in Korea and Taiwan, I clarify how both people's lives and social issues in colonized areas were examined and problematized in the modern literature of East Asia. These research results have been reported at the Workshop of the Conference of the Japan Comparative Literature Association, the EAJS International Conference, an international symposium in Ireland, and at other places, and the jointly written "The Literature Crossing the Sea" and "The Translation and Distribution of Japanese Literature" have been published.

研究分野：日本文学

キーワード：日本近代文学 比較文学 農民文学 農民文芸 アイルランド文学 近代演劇 翻訳 国策文学

1. 研究開始当初の背景

本研究課題が解明しようとする農民文学運動は、「近代の各国農民文芸を研究」することで、新興ジャンルとしての農民文学を形成することを目的とする「新運動」を標榜し(『農民文芸十六講』1926)、機関紙『農民』(1927 創刊)では海外の同時代文学が参照すべきモデルとして翻訳・紹介された。そのため、日本における農民文学を研究する際には、同時にどのような海外文学がどのように摂取されたのかという問題を検討することが必須である。

近年、農民文学運動に関わる研究が盛んになってきており、犬田卯ら『農民』派の思想的意義の実証的検証(船戸修一 2004)、プロレタリア文学作家同盟の内部組織としての農民文学研究会と『農民』派との間の理論的角逐(内藤由直 2009)、和田傳らの作品の精緻な読解を通じた一連の農民文学運動研究(椋棒哲也 2013)など、大正・昭和期の同時代思潮との関わりを見据えた農民文学研究の優れた成果がある。しかし農民文学運動において海外文学や思潮が果たした役割については、プロレタリア文学との関連が追究されてきたと言える。

農民文学運動においては、アイルランド文学が「その本質から農民文芸の展開の基礎を培った」(『農民文芸十六講』)とされ、愛蘭土文学研究会(1914 設立)の顧問吉江喬松をはじめ、帆足図南次、中村星湖、南潔らが盛んに A. E.、シング、オケイシーらアイルランド文学を翻訳・紹介した。帆足は『農民』に「エー・イーは農村共産社会を如何に展開したか」(1928.4)等を掲載する一方、1933 年には A. E. を訪問して日本の様子を伝え、成果を日本にフィードバックした。さらに帆足のアイルランド農民文学に関する評論「飢餓文学論」(『農民』1927.12)等複数の論考は、朝鮮で辛石然「大戦以降各国劇団発展過程 - 愛蘭演劇」(『東亜日報』1929)として連載された(金牡蘭 2009)、『農民』には安二孫「朝鮮農民のために」(1929.9)白鉄「反逆と接吻」(1930.3)ら朝鮮の作家が寄稿し、朝鮮・満州・台湾の農民文学の動向が紹介された。しかし、日本の農民文学運動がアイルランドや朝鮮の文学・思潮と関わりあいながら展開した問題については論じられてこなかった。

研究代表者は、これまで一貫して明治・大正期におけるアイルランド文学受容と相互交渉の解明に取り組み、アイルランドとイギリスの関係が、東北(や北海道)と東京、朝鮮と日本との関係に重ね合わされ、地方/中央、農村/都市、外地/内地、方言/標準語、朝鮮語/日本語という二項的な構図で語られた事を実証的に明らかにしてきた。研究が進むにつれ、時代が下った大正・昭和前期において、アイルランド文学の農村描写が日本や朝鮮の農村に重ね合わされ、日本農

民文学運動に摂取された問題が明らかになった。

2. 研究の目的

前述した研究当初の背景により、本研究課題では、アイルランド 日本 朝鮮の文学的相互交渉に着目することで、日本の農民文学運動が多文化間における文学の環流の中で展開したことを実証的に示し、日本の農民文学の特色と意義を明らかにすることを企図した。本研究課題の目的は、大正・昭和前期の農民文学運動の特色と意義を、アイルランド文学及び朝鮮の文学との相互交渉に着目することで明らかにすることである。農民文学は同時代西洋の農民文学を日本に翻訳・紹介することで展開したが、その中でも特にアイルランド文学は日本の農民文学の手本とされた。日本の農民文学運動において紹介されたアイルランド農民文学の評論は、朝鮮における農民文学運動に取り入れられた。アイルランドから日本、日本から朝鮮へと移動した農民文学について、資料の発掘と同時に多国間の文学の環流を引き起こした要因と過程を考察することである。

3. 研究の方法

本研究は、3 年計画で大正・昭和期の日本の農民文学運動における海外文学との相互交渉について、アイルランドと朝鮮との関係を軸に調査した。資料の収集・整理とその研究発表は一貫して三年間行い、研究成果を日本語と英語で公開した。

(1) 農民文学運動における翻訳・紹介と創作の連関に関する調査・研究：『農民』、『農民文芸十六講』、中村星湖『農民劇場入門』等の農民文芸叢書、中山義秀・帆足図南次『農民リーフレット』(1926 創刊)を軸に資料を収集・調査し、アイルランド文学、朝鮮文学との相互交渉を明らかにする。そして、『早稲田文学』(1926.8)、『文芸戦線』(1926.9)、『太陽』(1926.9)、『地方』(1926.10)等の農民文学特集や、申請者がこれまで研究してきた富田碎花ら民衆詩派や西條八十の詩における同時期のアイルランド文学受容(研究業績 4,16)等と比較研究する。本研究課題に関わる中村星湖「明月」、『麦飯』、安元知之「父を恋ふ」等の作品論を通し、海外文学摂取・翻訳と創作との連関を検討する。

(2) 日本農民文学運動をめぐるアイルランド 日本 朝鮮の相互交渉の実証的解明：アイルランド・ロンドン現地調査により、A. E.らアイルランド農民文学運動関連資料の収集及び帆足図南次の A. E. 訪問、帆足が寄稿したアメリカの雑誌 The New Masses 等の関連資料発掘を行う。併せて、韓国現地調査により、日本の農民

文学及びアイルランド文学の翻訳・紹介資料を周辺資料も含めて広範に収集し、日本の農民文学運動におけるアイルランド 日本 朝鮮の相互影響を実証的に明らかにする。

- (3) 実践としての農民劇場におけるアイルランド劇上演調査：福岡県浮羽郡の「嫩葉会」、中村星湖『農民劇場入門』及び中村星湖スクラップブックを通じた農民劇上演調査、飯塚友一郎『農村劇場』等を手掛かりとして行い、活動内容と特質を明らかにし、農民劇場の理論と実践の関係を検討する。

農民文学運動をめぐるアイルランド 日本 朝鮮の多文化間の相互影響は、重要であるにも関わらず未開拓な部分が多い。研究代表者は、アイルランド文芸復興運動を牽引した W. B. イェイツが、菊池寛の「屋上の狂人」(1916)を農村の民衆の姿を描き出した戯曲としてシング「海に騎り行く者たち」(1904)と並び称し、1927年にダブリン・アペイ座で上演したことを明らかにした。菊池寛は、「屋上の狂人」についてシングの影響を受けたと述べており異文化間における相互影響例である。このアイルランド文学と農民劇について、中村星湖は『農民劇場入門』等で農民劇場が上演すべき戯曲として「屋上の狂人」と共にアイルランド戯曲を推奨している。実際「嫩葉会」では、第一回試演会(1923)において「屋上の狂人」が上演され、シング「海に騎り行く者たち」等アイルランド戯曲も計5回上演された。両戯曲がほぼ同時期にアイルランドと日本で上演されたことは、日本農民文学が同時代の世界の文学潮流と連関しながら展開した実証例と言える。一方、帆足図南次はアイルランド 日本 朝鮮の文学の環流で重要な役割を果たした。本研究では、具体的資料の発掘と整理によって、アイルランド 日本 朝鮮の文学的相互交渉という視点に立って日本の農民文学運動の特質を追究した。

4. 研究成果

2015年度の研究成果は、大正・昭和期における日本の農民文学運動について、アイルランド・英文学と日本との関わりに関する資料、植民地朝鮮における農民文学関連資料の調査・収集・整理を行い、農民文学をめぐるアイルランド 日本 朝鮮の相互交渉を実証的に明らかにし、東アジアとアイルランド文学の相互影響に対して未開拓な事例を発信したことである。研究実績の概要は以下の三点に集約される。研究成果は論文化して、共著単行本として刊行する予定である。

- (1) 韓国国立図書館、国立ソウル大学校、高麗大学校で実施した『朝鮮及満州』『京城日報』等の調査結果を整理・分析した。現地調査及び知識伝授に関しては高麗大学校・金孝順氏の協力を得た。日本比

較文学全国大会(6月)において、中根隆行氏・金牡蘭氏と共に、ワークショップ「アイルランド文学と東アジア - 農民文学と植民地表象をめぐる」を企画し、研究発表「農民文学運動における「地方」の問題 「モデル」としてのアイルランド」を行い、農民文学における植民地表象の問題を明らかにした。

- (2) 農民文学運動におけるアイルランド劇の受容に関しては、作品間の影響関係を具体的に明らかにし、第37回関西アイルランド研究会(9月)にて研究発表を行ったほか、アイルランド文学研究会(5月、8月)において議論を重ねた。
- (3) 農民劇場の実践に関わる研究では、金沢大学人文学類シンポジウム「読みかえる、書きかえる 文学の越境と変容」(7月)において口頭発表「教育装置としての演劇 アイルランド演劇運動から日本における翼賛運動へ」を行い、農民劇と「翼賛運動」との関連を、中村星湖の評論及び伊藤松雄「町の劇場・村の劇場」運動から検討した。福岡県「嫩葉会」に関しては、福岡県うきは市における資料調査(6月)、神奈川近代文学館における資料調査(11月)を行い、研究成果を日本ケルト協会主催ケルト・セミナー(6月)において発表した。研究成果を連続して発表したことで研究動向を把握し、Irish Agricultural Organization Society及びIrish Homestead等の調査結果に関して専門知識の伝授を受けた。
- (4) 関連資料の調査と整理に関しては、福岡市図書館等における福岡県浮羽郡の農民劇場「嫩葉会」会報の調査を2回行い、早稲田大学、日本近代文学館・神奈川近代文学館等における日本の農民文学運動に関する資料調査を3回実施した。『朝鮮日報』『東亜日報』等における辛石然、柳到真、白鉄、安二鉄らの朝鮮における農民文学関連資料文献の収集を、韓国・国会図書館、国立ソウル大学校、高麗大学校において行った。現地調査では適宜金孝順の研究支援を得ることが出来た。さらに、帆足図南次が日本の動向を寄稿していたアメリカの雑誌The New Masses(大英図書館収蔵)を調査し、当該記事を複写した。
- (5) 研究成果の論文化と公開：ワークショップでの発表をもとに本研究に関する論文を執筆した。研究成果は論文化して、共著単行本として刊行する予定である。当該研究課題に関連する学術論文2本が学会誌(『日本近代文学』日本近代文学会、『Cara』日本ケルト協会)に掲載され、1本が学術同人誌(『論潮』)に掲載された。

2016年度の研究成果は、大正期から昭和期にかけてのアイルランド 日本 朝鮮の相互交渉について資料を収集・検討し、東アジ

アにおけるアイルランド文学の受容について考察した。日本及び朝鮮・台湾におけるアイルランド文学の受容及びアイルランド劇の翻訳・翻案・上演の事例を分析することで、植民地における人々の生活や社会問題が、東アジア圏の近代文学のなかでどのように焦点化・問題化されたのかをある程度の事例をもとに明らかにした。研究成果を、口頭発表4回、単著論文3本、共著書3冊において発表した。主な研究実績は以下の通りである。

- (1) The Second EAJS Conference in Japan (9月)において、日本近代演劇の英語圏での受容・相互交渉について、郡虎彦に焦点をあてて研究発表を行った。Ellen Terry宛郡虎彦宛書簡の翻刻を行った。口頭発表「アイルランド文学翻訳家としての松村みね子」(2月)、「近代文学史」は誰のものか?」(3月)を行った。呉佩珍氏(台湾政治大学台湾文学研究所)を招聘し、東アジアの近代文学とアイルランド研究会「アイルランド文学の越境とフォルモッサとの邂逅～菊池寛「暴徒の子」を中心に～」を開催し、多くの聴衆を得て活発な議論を行った。これらの研究成果を発表するため、共同研究者と平成29年の15th EAJS International Conference 2017(Lisbon)にパネルを応募し採択された。
- (2) 昭和初期から活性化する農民文芸運動における農民劇の理論化と実践に関わる問題について、単著論文及び共著書で研究成果を発信した。平成27年度の関西アイルランド研究会における日本近代の農民劇におけるアイルランド劇の受容についての口頭発表を、単著論文「農民文芸運動における教化・修養機関としての演劇の構想 中村星湖の農民劇理論と戯曲「明月」」(3月)として刊行した。さらに同年度の日本比較文学学会全国大会でのワークショップの成果を、共著書『文学 海を渡る 越境と変容 の新展開』(12月)で公刊した。日本とアイルランドの文学的・文化的相互交渉について、共著書『幻想と怪奇の英文学 増殖進化編』(7月)、『言語文化の越境、接触による変容と普遍性に関する比較研究』(1月)を刊行した。これらを含め、単著論文3本・共著書3冊を刊行した。
- (3) 資料の収集と整理：神奈川近代文学館、国立国会図書館等で農民文学運動に関する資料文献の収集と考察を行うと共に、植民地朝鮮におけるアイルランド文学・文化の紹介記事の調査、農民劇場(嫩葉会小劇場、溝ノ口青年演劇部)等の資料の収集・調査を行った。最終年度である2017年度は、農民文学をめぐるアイルランド・日本・朝鮮各地域間の

相互交渉に関する研究成果を公開することに重点を置いて研究を推進した。

- (1) 国際学会 The 15th EAJS International Conference (Lisbon, The Universidade NOVA, 2017/7/31)において Pieter Van Lommel(Tsukuba University), 吉原 ゆかり(同), Irina Holca(Kyoto University)とパネルディスカッション Literature and Education in Modern Japan: Three Case Studies of Non-Official Education through the Medium of Literature を企画し、研究発表 "(Made to) Act out Farmers: The Educational Aspects of the Japanese Peasant Literature Movement" を行い、専門家と議論した。
- (2) ダブリンで開催された国際シンポジウム International Symposium Japanese Studies in a global context (Dublin, Trinity College Dublin, 2017/12/1)において、研究発表 "The reciprocal influence of Japanese and Irish literature: W. B. Yeats and the Japanese peasant literature movement in the early 20th century" を行い、アイルランドにおける研究拠点トリニティ・カレッジ・ダブリンにおいて、本研究の成果である東アジアとアイルランド文学の相互影響について発表した。アイルランドの専門家らと討議・意見交換を行い、今後の研究方法を話し合った。
- (3) 国内学会・研究会において「戦間・戦時期の日本におけるイエイツ」(日本イエイツ協会第53回大会シンポジウム イエイツ再読 世界文学 として(2), 2017/11/16), 「農民劇の理論と実践 - 中村星湖の活動を起点として - 」(近代演劇研究会, 2018/03/03), 「明るい農民演劇」をめぐる - 総動員体制下の演劇運動の特質と実践 - 」(公開研究会「演劇 民衆文化と芸術の境」 2018/03/15)の研究発表を行った。
- (4) 研究論文を執筆し、河野至恩・村井則子編『日本文学の翻訳と流通』勉誠出版, 2017), 東アジア古典演劇研究会編『古典演劇研究の対象と視点』(金沢大学国際文化資源学研究中心, 2018)に発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

- (1) 鈴木暁世「郡虎彦「鉄輪」における改作と自己翻訳 女性参政権運動と柔術との関わり」『日本近代文学』第92集(日本近代文学会), 2015年5月, 1-16頁。査読有。
- (2) 鈴木暁世「一人で生きる道」の探求 松

村みね子/片山廣子とレディ・グレゴリー」、『論潮』第8号, 2015年7月, 21-48頁。査読無。

- (3) 鈴木暁世「響きあうアイルランドと日本の周縁 シング『聖者の泉』と菊池寛『屋上の狂人』をめぐって」、『CARA』第23号(日本ケルト協会), 2016年2月, 7-13頁。査読無(依頼)。
- (4) 鈴木暁世「連載 日本近代文学とケルト(1)」, 日本ケルト学会会報, p.2, 2016年12月, 査読無し(依頼・連載)。
- (5) 鈴木暁世「農民文芸運動における農民劇と「教化」 中村星湖の戯曲「明月」をめぐって」, 『語文』106輯・107輯合併号(大阪大学国語国文学会), 110-123頁, 2017年3月, 査読有。
- (6) 鈴木暁世「連載 日本近代文学とケルト(2)」, 日本ケルト学会会報, p.2, 2017年3月, 査読無し(依頼・連載)。

[学会発表](計17件)

- (1) 鈴木暁世「農民文学運動における「地方」の問題 「モデル」としてのアイルランド」, 日本比較文学学会全国大会ワークショップ「アイルランド文学と東アジア 農民文学と植民地表象をめぐって」, 於・立命館大学衣笠キャンパス, 2015年6月13日。
- (2) 鈴木暁世「日本近代文学におけるアイルランド 雑誌が生み出した流行とその魅力」, 日本ケルト協会2015年度ケルトセミナー, 於・福岡県・健康づくりサポートセンター, 2015年6月28日。
- (3) 鈴木暁世「教育装置としての演劇 アイルランド演劇運動から日本における翼賛運動へ」, 第8回金沢大学人文学類シンポジウム「読みかえる、書きかえる 文学の越境と変容」, 於・ITビジネスプラザ武蔵(金沢市), 2015年7月11日。
- (4) 鈴木暁世「農民を演じる 日本の農民演劇運動とアイルランド」, 第37回関西アイルランド研究会, 於・大阪経済大学, 2015年9月26日。
- (5) 鈴木暁世「横光利一「恐ろしき花」日本演出者協会・日本の近代戯曲研修セミナーin大阪 シンポジウム<大正期の戯曲を読む!>, 於・劇団未来ワークスタジオ(大阪市), 2016年2月6日。
- (6) 鈴木暁世「大正期における「小泉八雲」アイルランド文学受容と「ケルト」像の移入との関わり」, 富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会主催第1回国際シンポジウム「ラフカディオ・ハーン研究への新たな視点」, 於・富山大学(富山市), 2016年2月14日。
- (7) 鈴木暁世「近代日本における「ケルト」表象 日本近代文学に与えた影響と問題点」, 日本ケルト学会東京研究会, 於・慶應義塾大学日吉キャンパス(横浜市), 2016年3月12日。
- (8) 鈴木暁世「郡虎彦の戯曲における古典と近代」東アジア古典演劇研究会第3回公開講演会「日本古典演劇と近世・近代 その研究対象と方法をめぐって」, 於・金沢大学サテライトプラザ(金沢市), 2016年3月26日。
- (9) Akiyo SUZUKI, "The assimilation and rewriting of Japanese classical literature in the English drama of Torahiko Kori: In regard to the change of female image and self-translation for staging in London," The Second EAJS Conference in Japan(European Association for Japanese Studies), Kobe University, Hyogo, Japan, 25 Sep 2016.
- (10) 鈴木暁世「関東大震災と金沢の三文豪」, 中央区連携講座「金沢を知る」, 於・築地社会教育会館(東京都), 2017年2月4日。
- (11) 鈴木暁世「アイルランド文学翻訳家としての松村みね子」, 高志の国文学館企画展「知られざる作家の世界 書簡から直筆原稿、書画まで」, 於・高志の国文学館(富山市), 2017年2月18日。
- (12) 鈴木暁世「「日本近代文学史」は誰のものか?」, 人文学類公開研究会「文学史は誰のものか?」, 於・金沢大学(金沢市), 2017年3月13日。
- (13) Akiyo SUZUKI, "(Made to) Act out Farmers: The Educational Aspects of the Japanese Peasant Literature Movement," The 15th EAJS International Conference (European Association for Japanese Studies), The Universidade NOVA, Lisbon, Portugal, 31 Jul 2017.
- (14) 鈴木暁世「戦間・戦時期の日本におけるイエイツ」(会議名:日本イエイツ協会第53回大会シンポジウム「イエイツ再読 世界文学 として(2)」, 於・中央大学(多摩区), 2017年11月16日)
- (15) Akiyo SUZUKI, The reciprocal influence of Japanese and Irish literature: W. B. Yeats and the Japanese peasant literature movement in the early 20th century(会議名: International Symposium Japanese Studies in a global context: The art of friendship, Dublin: Trinity College Dublin, 2017/12/01)
- (16) 鈴木暁世「農民劇の理論と実践 - 中村星湖の活動を起点として -」(会議名: 近現代演劇研究会3月例会, 於・神戸松蔭女子学院大学(神戸市), 2018/03/03)
- (17) 鈴木暁世「明るい農民演劇」をめぐって - 総動員体制下の演劇運動の特質と実践 - (会議名:「演劇 民衆文化と芸術の境」, 於・金沢大学(金沢市), 2018年3月15日。

〔図書〕(計5件)

- (1) 東雅夫・下楠昌哉編, 鈴木暁世他著『幻想と怪奇の英文学 増殖進化編』春風社, 2016年7月, 全478頁, 59-77, 438-439頁。
- (2) 岩津航, 佐藤文彦, 杉山欣也, 鈴木暁世, 高田茂樹, 西村聡著, 『文学 海を渡る 越境と変容 の新展開』三弥井書店, 2016年12月9日, 全277頁, 67-107頁。
- (3) 西村聡編, 鈴木暁世他著『言語文化の越境、接触による変容と普遍性に関する比較研究』金沢大学人間社会学域人文学類, 2017年1月20日, 全138頁, 75-88頁。
- (4) 河野至恩・村井則子編, 鈴木暁世他著『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』勉誠出版, 2017年12月25日, 277頁, 49-66頁。
- (5) 東アジア古典演劇研究会(西村聡)編, 鈴木暁世他著『古典演劇研究の対象と視点』金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター, 2018年1月20日, 全132頁, 99-116頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 暁世 (SUZUKI Akiyo)

金沢大学・歴史言語文化学系・准教授

研究者番号: 60432530

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()